

## 創業8年目、建設・交流とも深化と広がり

～《真の受益者は日本の子どもたち》をめざして～

12年度の建設予定は過去最高の24校、これは企業・団体・篤志家の方々から10校ものご支援をいただいたことに依ります。アジアの現地では建設校を中心に村がまとまり始め、コーヒープロジェクトなどの自立支援事業も稼働を始めました。国内ではAEFAの特長である出前授業は51回実施、のべ176回となりました。また現地NGOを招聘しての地域フォーラム、先生方による国際理解教育研究会の開催…。AEFAの事業展開は一步一步、深まり広がりつつあります。一層のご支援ご協力をお願いいたします。

### 建設ご支援に広がり

2005年にタイ・ソップワック村(カレン族)に第1校を建設以来、支援校合計は147校となります。建設資金は、創業当初はすべて日本財団様の助成でしたが、徐々に企業・団体・篤志家のご支援が増え、今年度は10校(内5校は篤志家)のご厚意をいただきました。ご支援理由の第一が《学校建設・住民参加・国際交流》という3層建構成にもとづくAEFAの理念・活動を評価いただいたもので、スタッフへのなによりの励みとなっています。

### 国内外で重要会議開催

2011年度、二つの重要な会議・フォーラムを開催しました。

一つは、海外NGO6か国スタッフによるミーティングです。互に理念・活動・意見を活発に交換し、今後への有意義な示唆が得られました(詳細:右掲)。

二つは、社団法人東京倶楽部様の助成をいただき、先生の現地派遣・海外NGO代表らの招聘と出前授業及び地域フォーラム、そしてその集約としての総括フォーラム(国際理解教育及び交流研究会)の開催です。

これは、出前授業や地域フォーラムに準備段階から協力、共催して下さった先生方が東京に参集。国際理解教育と交流の目指すところから、未来を担う子どもたちに真に何を伝えるべきかが熱心に発言、討議され、その方向感を「AEFAの思い」としてまとめました(詳細:2～3頁)。

### 教育委員会後援などAEFAの認知広がる

上記の地域フォーラムは開催地の東京都武蔵村山市・

### ●NGO代表6か国ミーティング開催●

#### 新しい取り組みが実現

2月5日～9日、ラオス国パクセーで、学校建設や教員養成など教育に関するNGOの国際ミーティングを日本財団・AEFA共催で行いました。AEFAのベトナム、ラオス、タイの各パートナーNGO、日本財団のミャンマー学校建設及びカンボジアの師範学校教員養成プロジェクトから、6か国25人が参加。各団体が活動や成果を発表し、お互いの経験と知識を共有することができました。また、師範学校の視察や、山岳地域のパチュドン小中学校、ブオンナム小中学校を訪問し、先生、村人との話し合いで、学校を中心に村がいかに発展してきたかを実感しました。

参加者は、お互いのプロジェクトに活かせるアドバイスや意見を活発に交換。カンボジアの教員がタイの山岳地域の学校を視



察する、ラオスの学校でカンボジアの英語教材を活かせるのではないかと、など新たな可能性が相乗効果として生まれ、大変盛り多い4日間となりました。

三重県津市の教育委員会から後援をいただき、市内への広がりも期待されています。また、NHK、朝日新聞などの全国メディアに紹介されました(7頁)。

AEFAの活動が、教育界で、そして全国メディアを通して多くの方に共感をいただいたことに励まされました。今後も、AEFAはアジアの山岳地帯や僻村で教育を待つ子どもたち、そして学校を共に創っている村人や先生方の声をお伝えしていきます。

### AEFAの3層建理念



### ひとこと

#### 二つの水源：先生の使命感とNGOの熱き心

AEFA事業活動8年目が始まった。活動の原点を再確認する二つの機会があった。

一つは、東京での総括フォーラム研究会で国際理解教育とAEFAの役割が議論され、得られた結論は「子どもたちにのちの尊さを伝える」である。

二つは、ラオスにおける関係NGOミーティング。6か国・7つのNGOが集い事業活動報告と共に、理念と仕組みを議論し合い、切磋琢磨の場とした。

国内外のメンバーとの語り合いの中に、吐露された熱き思いこそが大きな成果でもあった。無私

の心で日々の活動に情熱を注いでいる仲間の熱き思いと言葉が、我々の胸の底まで流れ込んで心を満してくれた。そこには共通する「志」があった。これこそがAEFAの原点であると再確認できた。

AEFAを潤す二つの水源を確認した。「先生たちが持つ使命感とNGOの熱き心」である。この二つを大きな水源にして、AEFAは川の役目を果たそう。この二つの水源は決して涸れないのだから。

(理事長 谷川 洋)